Facado と Intra-mart ページベースとの連携

・各ファイルの配置

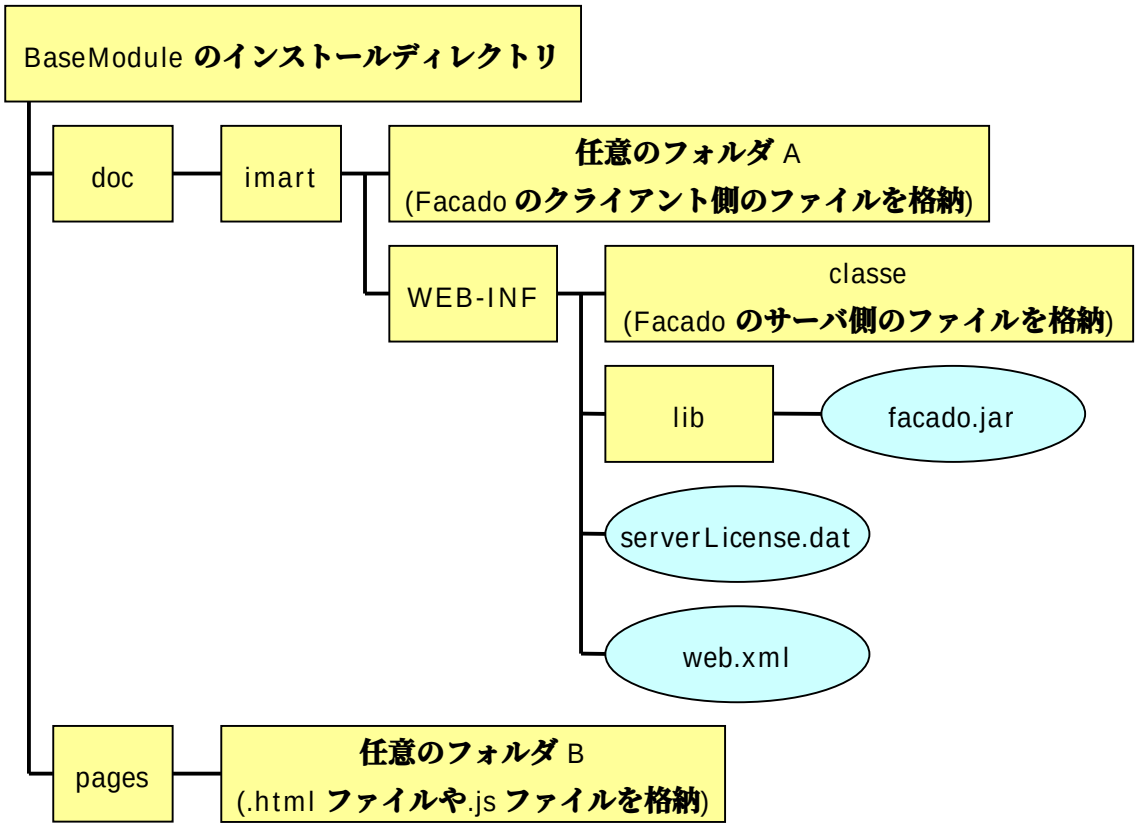

図 1　各ファイルの配置図(スタンドアロン型の場合)

任意のフォルダ A には FacadoStudio で生成されたファイルや自分で作成したクラスを配置する（例えば Facado の実行に必要なクラスや env.xml、license.dat、model.xml、画像などのリソースファイルなど)。
任意のフォルダ B には Facado を呼出すための Applet タグが記述されている HTML ファイルや、サーバ側に配置してある Javaのクラスから呼出すスクリプトファイルを配置する。
WEB-INF では serverLicence.dat を配置し、web.xml を編集（詳細は後述）する。
lib には facado.jar、classes には Facado のサーバ側のクラスやリソースファイルなどを配置する。

任意のフォルダ B に配置する HTML ファイルでは、ソースコード 1 に示したように applet タグの中で codebase を指定する。

```
<applet codebase="http:// サーバの IP アドレス:ポート番号/imart/任意のフォルダ A"
  code="facado.NEFacadoApplet" width="100%" height="100%">
     <param name="model" value="model.xml">
     <param name="env" value="env.xml">
     <param name="license" value="license.dat">
     <param name="collab" value="no">
</applet>
```

ソースコード 1　HTML **ファイルに記述する** Applet **タグ**

また、WEB-INF フォルダに配置されている web.xml ファイルを編集し、<web-app>の中にソースコード 2 の内容を追加する。

```
<servlet>
   <servlet-name>FacadoServer</servlet-name>
   <servlet-class>facado.server.NEFacadoServer</servlet-class>
</servlet>
<servlet-mapping>
   <servlet-name>FacadoServer</servlet-name>
   <url-pattern>/FacadoServer</url-pattern>
</servlet-mapping>
```

ソースコード 2　web.xml **内の記述**

FacadoStudio インストールマニュアルを参考にして Proxy サーバ URL を"http://(サーバの IP アドレス):(ポート番号)/imart/FacadoServer"に設定する。